

令和6年度第1回仙台市天文台運営協議会議事録

1 開催日

令和6年 7月31日(水)

2 開会及び閉会の時刻

14時00分開会、15時30分閉会

3 開催場所

仙台市天文台1階 加藤・小坂ホール

4 出席者

委員

秋山正幸委員、飯野正義委員、岩間友希委員、黒柳あずみ委員、西海枝恵委員、田村恵子委員、千葉恵子委員、中尾優美子委員、西山正吾委員、山口裕之委員

事務局

仙台市教育局	生涯学習部長	伊勢	文葉	
	生涯学習課長	小幡	拓	
	生涯学習課	施設係	係長	菊池 敦
		施設係	総括主任	石川 和浩
		施設係	主任	沼田 好紀

説明員

天文台長 小野寺 正己
天文台副台長 運営マネジャー 大江 宏典

5 会議次第

1 開 会

- 2 委員紹介
- 3 職員紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 報告事項
 - (1) 仙台市天文台運営協議会の設置趣旨について
 - (2) 令和5年度(2023年度)天文台事業実績について
 - (3) 仙台市天文台中期計画の評価報告(2023年度)について
 - (4) 令和6年度(2024年度)天文台事業計画について
 - (5) 本協議会での意見に関する対応状況について
- 6 その他
- 7 閉会

6 議事の概要

○開会

事務局 ただいまより、令和6年度第1回仙台市天文台運営協議会を開会する。

開会に先立ち、本協議会委員については、今年度改選となったため、各委員の机上に委嘱状を配置している。このことをもって、市から各委員への委嘱に代えさせていただく。略儀の形ではあるが、ご理解願いたい。また、本委員の任期は令和8年3月31日までとなるので、よろしく願いたい。

議事に先立ち、仙台市天文台運営協議会は「仙台市天文台運営協議会設置要綱」第6条第2項の規定により、会議の開催にあたり委員の過半数の出席が必要となっており、本日は10名全員が出席であり、有効な会議として成立していることを報告する。

次に本日の会議資料を確認する。

【確認資料】

- 資料1 仙台市天文台運営協議会設置趣旨
- 資料2 仙台市天文台運営協議会委員名簿
- 資料3 年報第16号(2023年度)、施設利用者の入館状況
- 資料4 2023年度中期計画の評価報告
- 資料5 仙台市天文台2024年度事業計画書
- 資料6 本協議会での意見に関する対応状況について

※ソラリスト2024夏号(机上配布)、研究・実践紀要第10号は机上配布。

※中尾委員提供資料

○委員紹介

事務局 委員の任期を 2 年とする仙台市天文台運営協議会は、今回の改選で第 7 期目となる。今回は第 8 期の最初の会議となるので、各委員には、一人 1 分程度で、改めて自己紹介をお願いしたい。資料 2 の名簿の順番に、秋山委員からお願いしたい。

各委員 (自己紹介)

※秋山委員→飯野委員→岩間委員→黒柳委員→西海枝委員→田村委員
→千葉委員→中尾委員→西山委員→山口委員の順番で実施

○職員紹介

事務局 生涯学習課長より事務局側の出席者を紹介。

○会長及び副会長の選出

事務局 続いて、会長・副会長の選任を行う。会長・副会長は、資料 1「仙台市天文台運営協議会設置要綱」第 5 条により、「協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。」とされている。立候補や推薦のある委員はいるか。

中尾委員 会長は前期会長の秋山委員、副会長も前期副会長の西山委員が適任と考えるが、いかがか。

事務局 今の推薦の意見に関して、他の委員の意見はあるか。

各委員 異議なし。

秋山委員、西山委員 異議なし。

事務局 では、今期の会長は秋山委員、副会長は西山委員に決定する。西山委員は副会長席にご移動願いたい。

秋山委員、西山委員 (移動完了)

事務局 では、秋山会長・西山副会長から、改めて一言ずつご挨拶をお願いしたい。

秋山会長、西山副会長 (それぞれ就任挨拶)

○報告事項

事務局 なお、本協議会は原則公開となっているが、本日の傍聴者はいないことを報告する。では、ここからの議事進行は秋山会長にお願いする。

会長 では、ここからは私が議事進行を務める。円滑な運営にご協力願いたい。

まず、本会議の議事録の署名人を指名する。議事録には会長の私の他にもう 1 名の署名が必要であり、委員名簿の記載順にお願いしたい。今回は飯野委員に

お願いしたいが、いかがか。

飯野委員 了承。

○報告事項

(1) 仙台市天文台運営協議会の設置趣旨について

事務局 資料 1 に基づき説明する。

本協議会は、本市と仙台市天文台運営事業者が締結する仙台市天文台の運営に関する契約書の規定に基づき設置しており、資料 1 の「仙台市天文台運営協議会設置要綱」第 1 条により、「天文台の運営方針や利用者のニーズに伴う事業内容の変更等について、本市に対し意見を述べる機関」とされている。委員の皆様には、このことに改めてご留意のうえ、天文台運営事業の向上のため、忌憚のない意見を頂戴したいと考えているので、よろしくお願いしたい。

会長 今の説明について、質問・意見等はあるか。

各委員 特に無し。

会長 意見が無ければ、報告事項(1)は終了とする。

(2) 令和 5 年度（2023 年度）天文台事業実績について

事務局 本件については、天文台運営事業者より説明する。

大江副台長 2023 年度の実績について、「年報第 16 号（2023 年度）」に基づき説明する。

まず、2023 年度の最大の事業は、プラネタリウムのリニューアルであると考えている。本年 6 月にプラネタリウムの更新とリニューアルオープンがあり、これが最もインパクトのある事業となっている。次に 27 ページ、来館者アンケートの結果をご覧いただきたい。

天文台は 3 年ほど前から、NPS（ネット・プロモーター・スコア）を使用してアンケートを実施している。NPS の基本集計は（資料の番号）に記載されており、最初の質問では「この施設を親しい友人や知人にどの程度お勧めしたいと思いますか？」という質問を行い、選択肢は 0（全く勧めない）から 10（強く勧める）までの 11 段階で評価する。推奨者（9・10 の選択者）、中立者（7・8 の選択者）、逆に推奨しない人（0～6 の選択者）を集計し、NPS が算出されるが、その結果、2023 年度の NPS は 43.9%となった。推奨者の割合から、非推奨者の割合を差し引いた数値がこのスコアとなるが、国内における NPS 導入の比較可能なレジャー施設等と比較しても、非常に高いスコアを記録しており、2022 年度は 29.0%であったことを考えると、かなり高くなったと言える。

次に、総合的な結果について説明する。33 ページをご覧いただきたい。

実際に来館する前の期待値（実線）と、来館後の満足度（点線）の比較をする
と、「プラネタリウム」が来館者の推奨に最も影響を与えていることがわかる。
一方、期待に応えられなかった部分としては、「施設までの交通アクセス」が
挙げられている。中立者（推奨度 7・8）を推奨者（9・10）に引き上げるため
には、34 ページのとおり、施設までの交通アクセスが NPS を下げる主要因と
なっているため、この点が改善されれば、推奨度はさらに高くなる可能性があ
ることが読み取れる。2023 年度の事業報告は以上となる。

事務局 引き続き、令和 5 年度の天文台利用者の入館状況について説明する。資料 3-2
を参照願いたい。この表では、上段が実入館者数、中段が天文台学習利用者数、
下段が一般来館者数の内訳をそれぞれ記載している。

令和 5 年度は、5 月に新型コロナウイルスの感染症分類が 2 類から季節性イ
ンフルエンザと同等の 5 類に引き下げられたことを受け、客足は回復傾向と
なった。全体としては、昨年度より入館者数が増加しているが、4 月に関して
は減少している状況であり、これはプラネタリウム休止の影響と思われる。11
月から 12 月にかけては、昨年度より低い割合となったが、前年度のプラネタ
リウム休止前の「駆け込み需要」の影響により入館者が増加したための影響、
と考えられる。一方、1 月から 3 月にかけては、前年度がプラネタリウムの休
止で入館者数が大きく減少していたことを受け、前年比で大きく増加したも
のである。以上の結果として、令和 5 年度の実入館者数は 164,238 人となり、
前年比で約 4 割増加となった。これは、新型コロナの影響前の令和元年と比較
すると、9 割程度の状況となっている。

中段の天文台学習については、令和 5 年度はプラネタリウムが再開した 6
月からの開始となり、10 カ月間で 29,733 人の利用があった。資料 3-3 は、令
和元年から令和 5 年度までの 5 年間の入館者数の推移をグラフで示してい
るので、併せてご参照願いたい。説明は以上となる。

会長 今の説明について、質問・意見等はあるか。

会長 入館者数のグラフを見ると、8 月を除けば令和 5 年度の来館者数はコロナ前の
水準まで回復しているようだが、8 月だけは令和元年度と大きな差がある。令
和元年の 8 月について、特別なイベントや来館者増加の要因があったという
ことか。

大江副台長 令和元年は 7～8 月にかけて企画展を実施したため、来館者数が急激に増加し
た。

副会長 NPS に関して、令和 4 年度から大きく改善が見られたが、その理由について
知りたい。プラネタリウムリニューアルの影響が増加の主因なのか。

大江副台長 NPS での集計を始めたのが新型コロナの影響の最中であったことと、プラネ
タリウムのリニューアルという増加要因が重なり、今年度までのスコアが大

きく改善されたのでは、と考えている。

田村委員 2月の入館者数に関して、令和4年度までは来館者数が減少しがちだったが、令和5年度は例年と比べてかなり増加している。今年度に関しては2月に特別な企画の実施などがあったのか。

事務局 2月については、令和3年度を除き、2月1日が天文台の開館記念日であり、その前後の土日に毎年「天文台まつり」を実施しているため、昨年度も多くの来館者が訪れた。それが増加の主因である。

中尾委員 33ページにあるように、交通アクセスの問題に関しては、毎回指摘がある。昨今のバスの減便やタクシー不足に加えて、駐車場も不足気味ということだが、この問題への対策や検討は行われているのか。

事務局 バスやタクシーの減便に関しては、新型コロナ以降、交通事業者への経営的打撃が生じたことに加え、2024年の法令改正による時間外労働への規制実施等の事情が重なって働き手の確保が非常に難しくなっており、現在の状況は非常に残念である。市としても、各交通事業者への働きかけや、(公財)仙台国際観光協会さんによる観光ルートの紹介等で天文台方面への観光客等のバス利用増加を図るなど、今後も交通アクセスの確保に取り組んでいく所存である。

また、駐車場について、錦ヶ丘地区が住宅地という土地柄、活用できる土地が少ないため恒常的な用地の確保は難しいが、イベント等で多くの来館者が予想される際には、トラブル防止のため警備・誘導を強化し、駐車スペースを工夫して駐車可能台数を増やすなどの対策をしている。今後、恒常的に駐車場不足となる事態が生じた際は、天文台運営事業者と協議しながら、対策を検討していく。

岩間委員 来館者数について、前年より利用者が36%増えたということだが、自分の管理施設でも同水準くらいの伸びがあり、新型コロナの影響が終わって多くの方が外出し、様々な場所へ繰り出していることが読み取れた。今後の来館者数について、新型コロナ前の水準に戻す又はそれ以上に引き上げていくためにはどうするか、を考えていくことになると思う。

32ページ・NPSの同行者について、「友人知人」の値は大きくマイナスで、「恋人」の値は大きく上昇しているようであるが、今後、来館者数増のためにどのような層をターゲットにする、というようなイメージや考えは持っているのか。

大江副台長 現時点で特に具体的な方策は考えていない。「恋人」への推奨度が非常に高いことは認識できたが、今後「恋人」層の推奨度を更に高めていくのか、反対に「友人・知人」層の度合いを回復させていくのか、などの方策等について、今後分析し、事業内容を検討していきたいと思っている。今回のNPSでは、昨

年と反対の結果が出ており、昨年は「友人・知人」の方が NPS の数値は高かった。新型コロナの影響の最中と、影響が無くなった後で社会情勢が変わってきていると見て取れるので、更に状況を注視していきたい。

副会長 34 ページの「推奨度 7 以上のジャーニーマップ」で、推奨度にプラスに影響した項目で、2 番目に高かったのは「待合スペースの印象」となっているが、これに関して現在工夫している点や今後の対策等について、考えているものがあれば、ご教示いただきたい。

大江副台長 ここで指摘されている場所がどこを指すのか、具体的に確認ができておらず、まずこれを分析・確認する必要があると考えている。それから改善策等を検討していきたい。

会長 ジャーニーマップについて、「0」付近の値の項目は、推奨度に特に影響を及ぼしていないとしており、「No.9 講座・ワークショップ」、「No.10 イベント等」が該当している。大学等と連携した講座等やイベントを実施しているが、これについてはどのような評価・分析をしているのか。

大江副台長 ジャーニーマップは 1 年の期間で回答を出しており、イベントに例えば 100 人くらいが参加したとしても、実際にアンケートに回答しているのは僅かな方しかいなかったため、今回のように全体的集計の際には、「あまり影響が出なかった (0 付近の値)」と出たのではないかと考えている。

会長 他に意見などはあるか。

各委員 無し。

会長 他に意見が無ければ、報告事項(2)は終了とする。

(3) 仙台市天文台中期計画の評価報告 (2023 年度) について

事務局 本件について、天文台運営事業者から説明する。

大江副台長 年報 10 ページの中期計画について、この計画は「社会的インパクト評価」という方法を採用しており、「社会課題の解決を目的とした評価方法」となっている。従来はアウトプット (成果物) を報告するのみであったが、今回からは、事業実施によりどのような変化が社会に起きたのか、とその成果 (アウトカム) に注目して評価する方法に変更した。

今回は 1 年目の評価報告をする。資料 4 に詳細は記載しているが、結果を簡潔に説明する。最も分かりやすいのは 4 の「アウトカム評価」の部分で、まさに成果がどれだけあったかを記載している。その中で、最終的な目標としている『宇宙を身近に感じられる社会、市民の天文学リテラシーの向上』を掲げており、この目標についてどれくらい実効性のある活動ができたのか、この表に示している。3 枚目の表には、『アウトカム』・『中間』・『A～E』などの項目があるが、これは市民の宇宙への興味や関心のレベルを示しており、「A」は宇

宙に興味が無い方への活動、反対に「E」は宇宙への興味・関心が高い方々への活動を指している。

2023 年度、各指標を設定して活動を行った結果は、市民 A・B に対する活動は多く実施できたが、一方で市民 C・D・E に対する活動については、まだ評価ができていないという状況となっている。

市民 A・B に関しては、来館前後でアンケートを取った結果、多くの方より「来館後に少し天文への興味が高まった」という回答をいただいております、ポジティブな変化が見られたと考えている。ただし、通常の来館（イベント目的でない）でも興味を持った可能性もあるため、この結果をもって「市民へのインパクトがあった」と断定するには至らなかった、と自己評価している。この部分に関しては、2024 年度も評価を実施し、両者を比較したいと考えている。

一方、市民 C・D・E の評価に関して、テーブル 1・ロジックモデルを作成して活動を進めたが、このロジックモデル自体の改善が必要だと認識した。今年度に様々な活動を記載して活動してみたが、市民 C・D・E の方々に対する活動についてはロジックモデルに紐づかなかった内容が多くあることが分かったため、ロジックモデル自体を見直していくことが必要と判断したものである。

今年度の結果報告としては、市民 A・B に対しては一定程度の活動が展開できたもの、市民 C・D・E については、活動に関するロジックモデルを見直す、という結論となった。報告は以上となる。

会長 今回の説明について、質問・意見等はあるか。

事務局 今回の説明について、質問・意見等はあるか。今回、各委員より会議前に予め質問を伺っていたが、この項目に関して、黒柳委員より質問があったので、まず事務局より紹介したい。質問内容は、「仙台市天文台の魅力や特徴を分かりやすく一言で言うと何になるか教えてほしい。」というもの。市外・県外の方々に天文台を勧める時、自分なりのお勧めポイントはいくつか挙げられるが、「短く一言で伝える」となると、なかなか難しいため、この点について伺いたいとのこと。これについて、運営事業者から回答をお願いしたい。

大江副台長 どのような方にどのように説明するのか、ということではいろいろな場合が考えられるが、一例として「外国人の方」に説明する場合には、『国内最大級の天文総合博物館』という表現になると思う。日本国内には天文に特化した博物館がいくつかあるが、望遠鏡や展示、プラネタリウムなどの設備がこれほど揃っている規模の大きい施設は、全国的にも見ても珍しいためである。

もう一つ、天文台の事業活動については、施設のミッションは『宇宙を身近にする』としているが、元の英訳では『Bringing the Cosmos Down to Earth』で直訳すると『宇宙を地上に降ろす』という意味となる。これはインパクトの

ある表現であり、こちらの方が外国人の方には伝わりやすいかもしれない。
説明は以上である。

事務局 黒柳委員から、もう一問ある。昨年の実習に参加された方から「ワークライフバランスが非常に良い印象を受けたと聞いた。皆様は多忙だと思うが、ワークライフバランスの指標や、組織内で働き過ぎ防止のためのチェック機能などがあれば伺いたい」、との内容であった。これについても、事業者から説明をお願いしたい。

大江副台長 当館のスタッフは、天文台運営事業者の一者である「㈱五藤光学研究所」という会社に所属する社員である。近年、様々な働き方が議論されている中で、当社では個々の労働形態に応じて、適切な労務管理と対応を心掛けているところである。

黒柳委員 回答いただき感謝する。知り合いの学生が天文台に博物館実習で来たときに、働き方に関して非常に良い印象を持ったと聞いたので、伺ってみたところである。また、1 つ目の質問については、「国内最大級」と言ってよいのでは、ということが印象に残った。天文分野の施設は他にもある中で、海外も含めた方に対して、仙台市天文台を紹介する際は、参考としたいと思う。

天文台長 「日本公開天文台協会」という組織があり、市民に対して星や天文学などについて紹介することを事業として行っている全国各地の天文台が加入しているが、その中で「博物館」として登録している施設は 10 箇所程度である。小規模な天文台は、例えば学芸員 1 名と事務員 1 名などの体制でスタッフ自体が少なく、更に夜勤などに従事する運営体制となっているところもある。

一方で仙台市天文台については、学芸員が 10 名程度所属しており、夜勤が入っても交代で対応できる体制となっていることが、働く際の負担軽減という点で大きいと思う。その様な体制にできたのは、市が PFI 事業としてこの天文台整備を決めた際、30 年という長い期間で多くの予算を配分し、人員を多く雇える仕様としたことが、正社員としての雇用と安定した勤務体制にもつながっている、と考えている。

副会長 中期計画に定義している市民 A・B・C などの区分けについて、「どういうイベントに参加しているのか」などの基準で区分けを行っているのか。

大江副台長 資料 4 のテーブル 2 に、「企画・交流活動ターゲットマトリックス」として、ここで定義している「市民 A・B・C・D」の各層に向けて、どのような活動を行っていくかを記載している。来館者について、8 割くらいは「市民 A」に該当するものと考えている。

副会長 先ほどの説明で「評価が難しい」と言っていた「市民 C・D」については、該当する人数が少ないと考えているためか。

大江副台長 そのとおり。人数が少なく、活動内容も「市民 A・B」に対するものと変わっ

てくるため、どのような評価方法を見出していくのが今後の課題である。

会長 活動への評価を行う際、来館者を中心としているということだが、非来館者に対するインパクトの評価についてはどのように考えているのか。先ほど話に出た SNS や、市の広報、天文台の広報誌「ソラリスト」の効果などがあると思うが。

大江副台長 現時点では、その評価方法までは着手できていない。効果の検証を行うには、街頭調査などを行えば判明するかもしれないが、まずは来館者を対象として評価を行いたいと考えている。

会長 他に意見や質問はあるか。

各委員 無し。

会長 他に意見が無ければ、報告事項(3)は終了とする。

(4) 令和 6 年度（2024 年度）天文台事業計画について

事務局 本件については、天文台運営事業者から説明する。

大江副台長 2024 年度の事業計画について説明する。資料 5 に基づき、簡潔に説明する。資料 3 ページの「マネジメント業務」について。今年度は実は「紫金山・アトラス彗星」という天体が肉眼でも観察できるという予測があり、話題になること想定し、イベントも準備したが、最近になりよく見えないということが判明したため、残念ながらこのイベントは実施しないこととなった。その天体の観察を普及させる計画としていたが、予定を変更した。

次に、4 ページの「活用促進業務」について。この業務は、にぎわい創出の一環として様々なイベントを実施するもので、2024 年度は天文台開台から 70 周年を迎えるため、そのキャンペーンを実施する。まず年明け 2 月開催の「天文台まつり」からスタートする計画としている。多くのコラボレーションイベントや市民との共同イベントについては、5 ページに記載のとおり。特に、5 月のゴールデンウィーク以降、天文台でのイベント実施希望者が急増しており、新型コロナの影響が終わったことを実感している。これに加え、現在も新たに計画したイベントもある。

次に、10 ページの観測研究について。⑧として記載されているが、最近の傾向として、観測以外の研究支援が増えてきている。これまでも望遠鏡を使用した観測研究支援は行ってきたが、最近は観測以外の研究で、主に大学生などから、「視覚障害者向けの星に関するワークショップを天文台で開催したい」という依頼や、「小学校 4 年の理科学習を研究しており天文台での学習活動を見学したい」など、様々な研究活動への協力を求める問い合わせが増えており、内容を審査のうえ対応している。

次に、教育支援について、11 ページに記載しているが、中学校の天文台学

習に関して、今年度より内容を改定し、新たな学習内容に基づいて実施している。今年度は、内容改定後の初めての年となるため、事業の結果を検証し改善を図ったうえで、2年目以降の学習に向けて必要な対応を進めていく。

次に、16ページの「⑤社会教育支援」、特に職場体験について、最近の傾向として、特に高校からの探究学習の依頼や問い合わせが増加している。実施計画には予定していなかったが、この背景として、高校をはじめ中学校や小学校で探究活動や職場体験を実施する学校が最近増えてきており、このニーズへの対応・受け入れについて、更に検討していく必要があると感じている。

次に、「展示業務」について、19ページ『プレショーギャラリー』（1階受付の向かい側展示スペース）への展示が、主にアーティストの方からの要望を中心に急増している。このスペースが「市民ギャラリー」として広く認識され、これを利用としたいという方が増えてきた、ということだと考えている。

次に、プラネタリウム運営について。22ページの『オーロラ交響曲』という映像作品の番組を上映中で、最近仙台などの低緯度地域でもオーロラが観測されるなど太陽の活動が活発になっているが、この現象を予測して投映番組とする計画を立てた。夏休み期間に入ったが、この番組を見に来る方が多く訪れており、予想どおりの結果となっている。

次に、望遠鏡業務について。24ページ記載の「臨時観望会」について、先ほどの「紫金山・アトラス彗星」が見えにくくなったことが判明したため、今年の大規模イベントとして計画していたが、中止となった。なお、25ページ記載の毎年開催している『ペルセウス座流星群を見よう!!』という観測会は、5年連続で悪天候により中止となっているが、今年は例年より観測条件が良いため、もし天候が良ければ多くの方が来館されるのではと思っている。

次に、「アウトリーチ業務」について。28ページに記載されているが、今年は移動天文車「ベガ号」が車両更新のため、今年度は10月までの活動となっている。リニューアル完了後の来年4月からは、新車両が稼働予定となっている。

次に、29ページ「大学・関係機関連携業務」について。毎年東北大学・宮城教育大学と連携し、このような記載事業を展開中である。全国の博物館の状況を見ても、地元の大学等と連携して事業を行っているところは少なく、当館は他博物館と比較しても恵まれている状況と思っている。引き続き連携を維持し、事業展開を行っていきたい。

最後に、「天文情報提供業務」について。32ページ、広報活動としてSNSでの発信を強化している。特に旧Twitter(X)のフォロワー数が多く、市内の施設の中でもトップクラスとなっている。注目されているということなので、今後も引き続きSNSでの発信を強化していきたいと考えている。

説明は以上となる。

会長 今回の説明について、質問・意見等はあるか。

一同 特に無し。

会長 特に意見がなければ、報告事項(4)は終了とする。

(5) 本協議会での意見に対する対応状況について

事務局 資料 6 をご覧いただきたい。昨年度の本協議会において、各委員から様々な意見や提案をいただいたが、これらの意見に対する対応状況について、資料 6 のとおりまとめている。資料 6 の左側の欄は「今年の会議での委員意見の要旨」、中の欄は「天文台・生涯学習課発言要旨」、右の欄は「対応状況」として、それぞれ記載している。各委員の事前資料送付の際、これに関する質問等について伺っていたが、この場でも改めてご確認のうえ、意見があれば頂戴したい。

会長 今回の説明について、質問・意見等があるか。

副会長 No.9 のソラリストの配布先について、QR コードを付けて配付するとの回答を得ていたが、どのくらいのダウンロード（配付）数があったのか、集計はしているのか。また、その数はどのくらいか。

大江副台長 集計数は取れるが、詳細な数について、現時点では把握していない。今後、確認したい。

田村委員 No.7 について。前回の協議会で、「プラネタリウム内においてスマホで星を撮影する」という企画について、興味があると発言した。今回、冬季に開催したと報告があったが、参加者からどのような感想や評価が寄せられたのか、お聞きしたい。

大江副台長 もともと年間で来館者数が少ない冬季に開催したため、参加者数はやはり少なかった。今年度は夏季に初めて開催するため、参加者数などがどうなるか、状況を見守りたい。企画内容については、参加者のスマホのスペックによって満足度が変わる（最新機器は綺麗に映るが、古いものはうまく映らないなど）ことが分かった。また、スマホ使用そのものに慣れていない方もおり、使い方の指導などを行ったこともあった。今後は、そういったことを踏まえ、内容を更にブラッシュアップして提供することを検討中である。

田村委員 綺麗に取れた星などの写真が SNS に上がれば、それが天文台の宣伝になり、見た方がさらに興味を持ち来館するという流れにつながるのではと思った。また、先ほどの話だが、プレショーギャラリーでの展示については、ぜひ様々な写真展示を企画していただきたい。

西海枝委員 天文台は SNS のファンも多いと聞いており、このファンの力を宣伝に活かさないか、と考えている。博物館施設でありどこを撮っても画になると思うが、天文台の各所において、「この画像は SNS に上げて可」のような掲示はし

ているのか。

大江副台長 展示室などに「撮影可」のような掲示はしているが、「画像を SNS に投稿可」のような表示はしていない。今後、対応できるか検討していきたい。

西海枝委員 No.11 について、対応を検討中とあるが、先ほどの話で中学校天文台学習のプログラムを改訂したとのことで、私の中学校が天文台学習に行った際に私は同席がかなわず、残念だった。今年度は改訂 1 年目であり、その内容を検証し今後活かすとのことだったが、具体的にどのようにしていくのか、考えを伺いたい。また、来館者数に関して、今年度はコロナ前の 9 割程度まで回復したと言っていたが、その目標数に関して、どの程度まで伸ばすことを想定しているのか。更に、来館者のターゲットとしてそのような方々を想定しているのか。同様に伺いたい。

大江副台長 天文台学習の内容見直しについては、改訂後の学習プログラムを各学校がまさに現在受講しており、受講後の担当教諭へのアンケート結果や、学習時の生徒の反応などを注視しながら、今後の改善点等を見出していくことを考えている。

事務局 来館者数の目標設定については、やはり難しい問題である。錦ヶ丘地区に移転前の時点（2008 年頃）は、目標値は 11 万人としてを設定していたと聞いている。令和 5 年度は合計 16 万人を超えており、当時の目標に対しては、大きく上回っている状況である。今後について、更に来館者数を増やしていく努力は必要だと思うが、施設自体のキャパシティや駐車場確保の問題などもあり、一定の限界があると考えている。そのような様々な制約も考慮しながら、できるだけ多くの方に来館いただけるよう、天文台運営事業者と連携し方策を検討していきたいと考えている。

会長 他に意見や質問はあるか。

各委員 無し。

会長 他に意見が無ければ、報告事項(5)は終了とする。

(6) その他

中尾委員 私から 1 点、情報共有させていただく。令和 5 年度観光庁発行の「ポストコロナに向けた国際会議誘致競争力向上のための事例集」に、仙台市天文台と連携した市民公開講座の情報が掲載されている。この機会に皆様にご紹介させていただきたい。

中尾委員 （資料及び事業概要を説明）

会長 他に何かあるか。

事務局 2 点連絡する。天文台内の有料施設（プラネタリウム・展示室・天体観望会）を見学・利用される場合は、委員本人に限り無料で観覧できるのでご留意願

たい。また、本日配布した研究紀要及び広報誌ソラリストについては、各自ご確認いただきたい。

会長 他に何かあるか。

一同 特に無し。

会長 何も無ければ、本日の議事は終了とする。円滑な議事進行に協力いただき、感謝する。

(7) 閉会

事務局 以上で、令和 6 年度第 1 回仙台市問題運営協議会を閉会する。

令和 7 年 3 月 2 4 日

会長

秋山 正幸

議事録署名人

飯野 正義
